

# 「面白いから、楽しいからやっている」「直売所は地域を拓く」

## 農政建設常任委員会が「6次産業化に取り組む事業者」と意見交換

農政建設常任委員会と市内で「6次産業化に取り組む事業者」との意見交換会が15日、行われました。事業者として安塚区のTさんなど10人の方が出席してくださいました。私も傍聴させていただきました。

会では農政建設常任委員が自己紹介した後、参加した事業者のみなさんが、それぞれ農畜産物の生産に携わっている状況、漬物や乾燥野菜などの加工と販売などについて語りました。

このなかでは、「米の価格は半分になり、豚などの家畜は駆逐された。ふと気付くと、カラスの鳴き声しか聞こえない」「お母さんたちがとても元気で、楽しく仕事をしている。農村の魅力が失われていくことを一番心配している」「70を過ぎて、先が見えないという不安がある」「6次産業化は魔法の言葉だ。農家のせがれが農業を継げないのが一番の問題だ」などの声が出ました。

続いて、これらの発言を頭に入れた中で、意見交換が行われました。

私が注目したことのひとつは、「農業における楽しみ」を口にする人が何人もいたことです。「朝3時半に起きて働いているが、面白いから、楽しいからやっている」「こんなに割の合わない職業はない。でも、普通にやればいいのか。楽しくやればいいのか」といった発言が続きました。私は、猛烈に忙しい中でも、農場だよりを出して、イラストも描いている友人の取組などを思

い出しました。

2つ目は「農畜産物の直売所」の力についてです。浦川原区のMさんが、「売ることによって6次化になる。ところがメイドイン上越ひとつとってみても売場所が少ない」と発言したことを皮切りに、「直売所は地域を拓

く。ものすごくいい働きをしている」「6次化したものはまず地元で売った方がいい。地元でまず売る、ファンをつくる、循環させることが大切だ。直売所の数も増やしてほしいし、ちょっと置くところもほしい」「東京で上越のものを買うことができるのはどこか見えないという声もある。考えてほしい」などの声が上がりました。市内の直売所を改めて見てみたい、販売者の声をもっと聴きたいと思いました。

3つ目は、「支援はきめ細かくということ」です。吉川区のSさんは、「加工をやっていると、表示などで義務がある。これがけっこう金がかかる。食品の成分検査、ラベルなど法律が変わるたびに負担がある」「新規や事業の拡大などでは支援されるが『継承』の場合は、現状維持だからダメとなっている。『継承』のときも使える補助を」「各種交付金は対象品種が特化されていることが多



い。地域で取り組んでいる品種も対象となるよう、品種特化よりも多様化を重視してもらいたい」と訴え、注目されました。また、頸城区のIさんは、「一つひとつの商品を開発し、販路を拡大していくのが難しい。セミナーなど勉強できる場を設けてほしい」と訴えていました。

このほか、ネット販売と口コミの魅力、ハウス園芸における資材費の高騰（倍加）などについても活発な意見交換がされました。

今後は生産加工の現場で、または直売所で、じっくり関係者の意見を聴いて、行政でやるべきことを探りたいと思いました。



【キダチダリア】別名は帝王ダリア。キク科ダリア属の多年草。茎は四角形で節があります。大きいものになると、高さは8メートルにもなるとか。まさに帝王ですね。花は紫に近いピンク色。花言葉は、「乙女の真心」「乙女の純潔」。写真は吉川区下町にて18日撮影。



感動の  
広島レポート

広島平和記念式典に派遣された生徒たちのレポートが16日、オーレンプラザの廊下に貼りだされました。

参加者の一人は、人と顔合わせ、思いを伝える大切さも知れ、大変よい経験ができました」と書いていました。

多くの人が読んでほしいですね。

# はしづめ法一の活動レポート

**No.1935 2019.11.24**  
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第五八三回 チンドン屋と…

東京と言うと、「ごちゃごちゃしていて落ち着かないところ」という先入観がありました。でも、ホッとするようなところも残っているんですね。

先日、東京へ出かけたとき、神田神保町の古本屋街で思わぬものご出会いました。

ひとつはチンドン屋さんです。

神保町交差点付近を歩いていると、前方から、太鼓の音がし、クラリネットとおぼしき音も聞こえてきました。明らかにチンドン屋と思われる音楽です。大急ぎでスマートフォンを取り出し、すれ違いうぎりぎりのところで撮影に成功しました。

後にスマートフォンで画像を見てわかったのですが、このチンドン屋さんは、生姜焼き定食専門店のオープンの宣伝をしていたのでした。演奏していた曲は、たぶん行進曲だったと思います。賑やかで元気のいい曲でしたから。

チンドン屋をしている人たちは三人、チンドンをやっている先頭の女性は笑顔です。まきとも楽しそうでした。クラリネットを演奏をしている男性もそう、クラリネットの演奏の仕方そのものが楽しい雰囲気をもも出してました。そして一番後ろを歩いていた女性は、お店の宣伝ビラを一枚一枚配っていました。

私がチンドン屋さんと出会ったのは本当に久しぶりです。これまでの人生でも、おそらく、ほんの数回の出会いでしょう。そのうち、子どもの頃、柿崎のお引き上げか原之町商店街で出会ったのが最初で、強烈な印象を持ちました。いまでも、チンドン屋という心がこもった音です。

ですから、神田神保町で出会ったチンドン屋さんたちの演奏でも懐かしさを覚え、うれしくなりました。もし私が四、五歳の小さな子どもだったなら、しばらくチンドン屋さんたちの後ろについていったこと

思います。

もう一つは屋外放送です。

チンドン屋さんと出会って三十分後くらいだったでしょうか、ちよūdō農文協の農業書センター内で本をゆっくり見ている時でした。突然、窓の外から音楽が流れてきたのです。

♪ゆづりやけこやけで ひがくれて

やまのおてらの かねがなる

おてつないで みなかえろ

からすといっしょに かえりましょう

時間はちよūdō五時、「夕焼け小焼け」の放送でしたが、まさか、東京は神田神保町で五時を伝える防災行政無線放送を聞くとは思っていませんでした。信じがたい気持ちになり、本屋のスタッフの男性に、「これはなんですか」と訊いたほどです。

防災行政無線は、これまで都市部で聞いたことはなく、農村部のようなところにも配置してあるものだと思ひ込んでいました。流された「夕焼け小焼け」は、歌詞を思い出せば、農村部でないと似合わないはずなのですが、東京のと真ん中であっても違和感はまったくありませんでした。それどころか、この曲は都会でも夕方の風景にマッチするのではないかと思ひたくらいです。親しみをおぼえましたね。

私の思い出に残っている時を伝える音は、吉川区村屋にあったサイレンの音です。子どものころは、山の中の田んぼで午前一時半や五時のサイレンを聞くと、食事の時間が近いとうれしくなったものです。最近ではサイレンから音楽にかわっていましたが、童謡はいいですね。

童謡はどこで聞こうが人の心を優しくしてくれます。気持ちをゆったりさせてくれます。神田神保町の本屋街で聞いた「夕焼け小焼け」は一生忘れないでしょう。

## 葉っぱを使った絵づくり



オーレンプラザの創作館で16日、木の葉を使った絵づくりが行われました。創作館に入った瞬間、葉っぱが発生源と思われるいい香りがしました。いい香りの中、葉っぱで絵を作るって素敵ですね。

## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月13日(水)	11月20日(水)
上越南消防署	0.043	0.050
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.050	0.063
東頸消防署	0.050	0.057
高士分遣所	0.047	0.047
名立分遣所	0.047	0.053

### 模擬議会に向け2回目の事前学習

22日の模擬議会に向けて18日、吉川中学校で2回目の事前学習が行われました。

今回は質問づくり。滝沢議員の説明の後、各グループで一般質問の原稿書きが行われました。議員からは、「地名や知っている人の名前を入れると、ぐっと親しみやすくなるよ」「具体的な質問には数字を使うのもいいね」などのアドバイスがありました。

事前学習を終えるにあたって、宮川議員が、「緊張する

と思いますが、これも授業、失敗してもいい。楽しくやりましょう」と挨拶しました。

